

06504434/9
DIALOG(R)File 347:JAPIO
(c) 2002 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

06504434 **Image available**
STOCK PRICE ESTIMATION METHOD AND DEVICE USING TREND LINE

PUB. NO.: 2000-090150 [JP 2000090150 A]
PUBLISHED: March 31, 2000 (20000331)
INVENTOR(s): SASAKI TAKAO
APPLICANT(s): CWL KK
APPL. NO.: 10-256372 [JP 98256372]
FILED: September 10, 1998 (19980910)
INTL CLASS: G06F-017/60

ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To estimate a stock price with high accuracy, to facilitate the investment to stocks and to secure high economic effects by applying a rule that shows a peak in a fixed period.

SOLUTION: A rule showing a peak in a fixed period is prepared to show a peak per month when a fixed period is equal to one month. The peaks are connected together on a peak trend line 2 and the bottoms are connected together on a bottom trend line respectively. The line 2 is a plot of points included in a fixed period continuous from the movement average and accordingly gentle and easily estimated. Thus, the line 2 is continuous to the future and can estimate a stock price with high accuracy. Furthermore, a large movement of a corporation is grasped when a fixed period is defined as one year and the line 2 can estimate the future. Then the factors caused by the accuracy improving processing, the factors of singularity of every corporation and other factors are added to the line 2 to attain the automatic estimation of stock prices in a system using a program.

STOCK PRICE ESTIMATION METHOD AND DEVICE USING TREND LINE

Patent Number: JP2000090150
Publication date: 2000-03-31
Inventor(s): SASAKI TAKAO
Applicant(s): CWL:KK
Requested Patent: ☐ JP2000090150
Application Number: JP19980256372 19980910
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F17/60
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To estimate a stock price with high accuracy, to facilitate the investment to stocks and to secure high economic effects by applying a rule that shows a peak in a fixed period.

SOLUTION: A rule showing a peak in a fixed period is prepared to show a peak per month when a fixed period is equal to one month. The peaks are connected together on a peak trend line 2 and the bottoms are connected together on a bottom trend line respectively. The line 2 is a plot of points included in a fixed period continuous from the movement average and accordingly gentle and easily estimated. Thus, the line 2 is continuous to the future and can estimate a stock price with high accuracy. Furthermore, a large movement of a corporation is grasped when a fixed period is defined as one year and the line 2 can estimate the future. Then the factors caused by the accuracy improving processing, the factors of singularity of every corporation and other factors are added to the line 2 to attain the automatic estimation of stock prices in a system using a program.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-90150

(P2000-90150A)

(43) 公開日 平成12年3月31日 (2000.3.31)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード (参考)

G 0 6 F 17/60

G 0 6 F 15/21

Q 5 B 0 4 9

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-256372

(22) 出願日 平成10年9月10日 (1998.9.10)

(71) 出願人 395011207

株式会社シーダブリューエル

大阪府池田市大和町6番9号

(72) 発明者 佐々木 隆雄

大阪府池田市大和町6番9号 株式会社シ

ーダブリューエル内

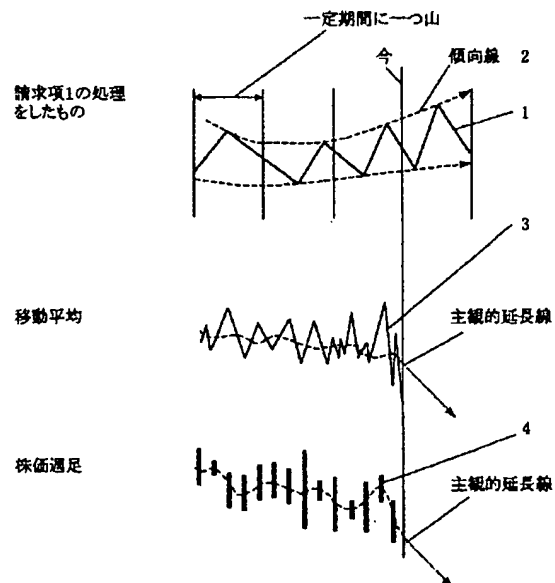
Fターム (参考) 5B049 BB47

(54) 【発明の名称】 傾向線による株価予測方法および装置

(57) 【要約】

【目的】 傾向線による株価予測方法および装置

【構成】 株価は変動するもので予測はむづかしく、予測に使われる移動平均や株式で使われる株価週足で表現したもので現在が山なのか谷なのかは表現出来ず、今までの株価の図表からは予測は実績の主観的延長線だが、一定期間に一つの山というルールを入れると今が山なのか谷なのかつかみやすく、一定期間は一般的には一ヶ月とし山が一ヶ月に一回あるとすれば分かりやすく、山を結んだものを山の傾向線谷を結んだものを谷の傾向線とし、この傾向線は一定期間の点のプロットのためなだから移動平均より先の予測の精度を上げることが出来、プログラムによるシステム化でより複雑なファクターを追加した予測を自動化することが出来る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 株価は変動するものであり、なお株価全体をあらわす日経平均の株価が下がる時各社の株が皆下がるものでもなく企業別に株価の山谷が異なり、なお株価の今が山なのか谷なのかはいつも分からないが請求項1で分かりやすく出来る方法があり、今が株価の山なのか谷なのか分かれば次の山次の谷の方向性が予測出来、一般的な移動平均や株式で使われる株価週足で表現したもので今が山なのか谷なのかは表現出来ず、今までの株価の図表からは予測は実績の主観的延長線だが、一定期間に一つの山というルールを作り一定期間は一般的には一ヶ月とし山が一ヶ月に一回のみあるルールで表したとき以下に説明する傾向線で予測が今より容易になり谷は山と山の間の最低で簡単に見つかり、山を結んだものを山の傾向線谷を結んだものを谷の傾向線とし傾向線は移動平均より一定期間の点のプロットのためなだらかで予測しやすく、このようにして一定期間に一つの山があるルールで表現することを特徴とする株価の予測方法。

【請求項2】 株価の予測において請求項1の方法の全部又は一部を使用して一定期間を年間で表したとき企業の大きな動きが分かり傾向線で大きな将来の予測を可能し、このようにして大きな一定期間で大きな将来の株価を予測することを特徴とする株価の予測方法。

【請求項3】 株価の予測において一定期間に一つの山というルールによる傾向線で将来を予測する請求項1と、大きな一定期間のとき大きな予測が出来るという請求項2と併せて企業別特異性の要因や社会情勢の要因やその他のファクターを追加しプログラムによるシステム化でより株価の予測の精度を上げ自動化することを特徴とする株価予測方法および装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は株価の予測方法に関し、さらに詳細には、主として手作業およびコンピュータその他の方法で株価の予測を行う技術に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、一般の株価の予測方法は移動平均や株式で使われる株価週足で表現したのから主観的延長線によりものだがこれにかわる精度の高い予測方法がない。

【0003】なお、実績の図表の主観的延長線で予測したものを使用して実用に耐える保証は難しい。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のような株価の予測方法を提供しようとした場合、以下に述べるような問題点があった。

【0005】すなわち、上記のような株価の予測方法の体制を構築しようとする場合請求項1の処理をされたデータの準備が必要である。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するためには本発明による方法で請求項1の処理をされたデータで株価の今が山に近い谷に近いかを判断し精度の高い予測をすることが出来る。

【0007】この発明による方法で株価の予測をするとき株価の今が山に近い谷に近いかを判断出来るため精度の高い予測をすることが出来、株価について精度の高い予測方法の普及を推進させることになる。

【0008】

【作用】本発明の株価の予測方法を使えばより精度の高い株価の予測を行うことが出来る。

【0009】株に投資する個人投資家の増加するなか本発明の方法は採用が容易で株価の予測の精度を上げることが出来精度の高い株価の予測方法の普及を推進させることになる。

【0010】

【発明の実施の形態】株価の予測をするときに請求項1の処理をして株価の今が山に近い谷に近いかが判断して精度の高い予測をする。

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。なお、以下に説明する実施例は、本発明に係る株価の予測方法の例を示す。

【0011】図1は本発明の構成と従来の方法を概略的に比較して示す図である。この図において、1は本発明の株価の予測の請求項1の処理をしたものを示し、傾向線が今より先に容易につながり、2は今より先を容易に株価の予測で精度の高い表現が出来る傾向線を示し、3は従来の株価の予測に使われる移動平均の方法を示し、今より先は主観的延長線、4は従来の株価の予測に使われる株価週足の方法を示し、今より先は主観的延長線である。

【0012】図2は本発明の株価の予測のより精度の高い処理動作を概念的に示す図である。今より先の傾向線について付加すべきより精度を上げる請求項2での処理による要因や企業別特異性の要因や社会情勢の要因やその他のファクターの要因を追加しプログラムによるシステム化で株価の予測の自動化をすることを特徴とする株価予測方法および装置。

【0013】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明によれば、株価の予測で精度の高い予測をすることが出来、株式投資を容易にし大きな経済効果をもたらす。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の構成を現状のものと比較し概略的に示した図である。

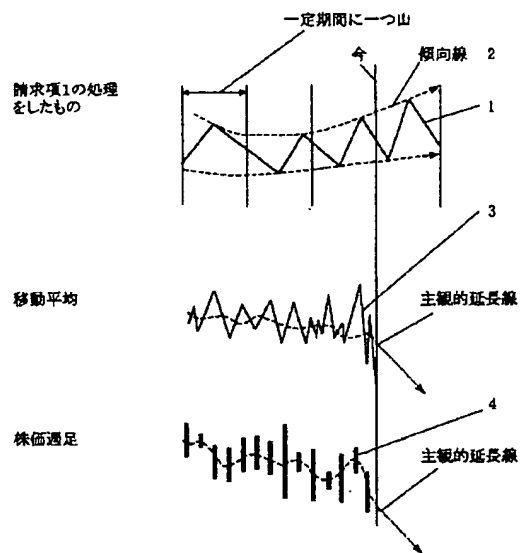
【図2】本発明の一実施例にかかるプログラムによるシステム化により精度の高い予測をする付加すべき要因追加の過程を概略的に示した図である。

【符号の説明】

1 株価の請求項1の処理をしたもの
2 傾向線

3 移動平均
4 株価週足

【図1】



【図2】

